

株式会社 アプリックス

平成18年12月期第3四半期

注意事項

本資料には、2006年11月15日現在の当社及び当社グループの将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想が含まれておりますが、その性質上、国内外での経済動向・市場の需要・為替レート・税制等の制度変更といった潜在的リスクや不確定要素によって変動する可能性が存在します。当社は、このような情報内容を保証するものではなく、株主および投資家の皆様がこのような情報を使用されたことより生ずるいかなる損害についても責任を負うものではありません。

この資料に含まれる金額は、注記がない限り単位未満桁の数値を切り捨てております。



代表取締役会長
最高経営責任者 兼 最高技術責任者

郡山 龍

代表取締役社長 最高執行責任者

関野 正明

取締役 最高戦略責任者

Wesley Kuo

執行役員常務 R&D本部 本部長代理

吉本 晃

執行役員常務 S&M本部 本部長代理

高尾 慶二

取締役 最高財務責任者

山科 拓

R&D本部 チーフ・プラットフォーム・アーキテクト

門間 純一

第3四半期ハイライト



■ 事業進捗状況

- JBlend出荷台数: 約3,383万台
 - 前年同期比約78%の成長
 - 累計出荷台数は約2億6773万台
- 携帯電話向けJava
 - Motorola向けは引き続き高水準を維持
 - NTTドコモ、Samsung Electronics向けの出荷が高成長

■ 第3四半期業績

- 売上高: 1,617百万円
- EBITA: 340百万円
- 営業損益: 340百万円

四半期業績



■ 第3四半期の主なポイント

- 大型顧客の好調な出荷に伴い、ロイヤリティ収益が好調
- 費用は第2四半期同様、ほぼ平準化水準に

	2005年 1-3月期	2005年 4-6月期	2005年 7-9月期	2005年 10-12月期	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期	2006年 7-9月期
売上高	584	1,244	1,399	1,801	1,018	2,435	1,617
(前年比)	35.2%	35.7%	40.2%	35.4%	74.3%	95.7%	15.6%
売上原価	416	522	698	660	1,035	817	777
粗利益	167	722	701	1,143	(17)	1,618	840
(粗利率)	28.6%	58.0%	50.1%	63.4%	-1.7%	66.5%	51.9%
販売費および一般管理費	1,297	1,362	1,415	1,661	1,755	1,491	500
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923	0
販管費	374	439	491	737	832	568	500
(のれん代を除く営業費用)	790	961	1,190	1,397	1,867	1,384	1,278
営業損益	(1,130)	(639)	(714)	(519)	(1,771)	126	340
経常損益	(1,119)	(616)	(692)	(533)	(1,775)	158	421
当期損益	(1,048)	(764)	(805)	(697)	(1,445)	(357)	201
EBITDA	(88)	411	353	567	(694)	1,324	516
(EBITDAマージン)	-15.1%	33.0%	25.2%	31.5%	-68.1%	54.4%	31.9%
連結調整勘定償却前営業利益	(207)	284	210	404	(848)	1,049	340
(償却前利益率)	-35.4%	22.8%	15.0%	22.4%	-83.3%	43.1%	21.0%
減価償却	119	127	143	163	154	275	177
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923	0

(単位:百万円)

売上高



■ 売上高の内訳

- 北米向けが引き続き堅調
- 技術支援売上は昨年並みの水準

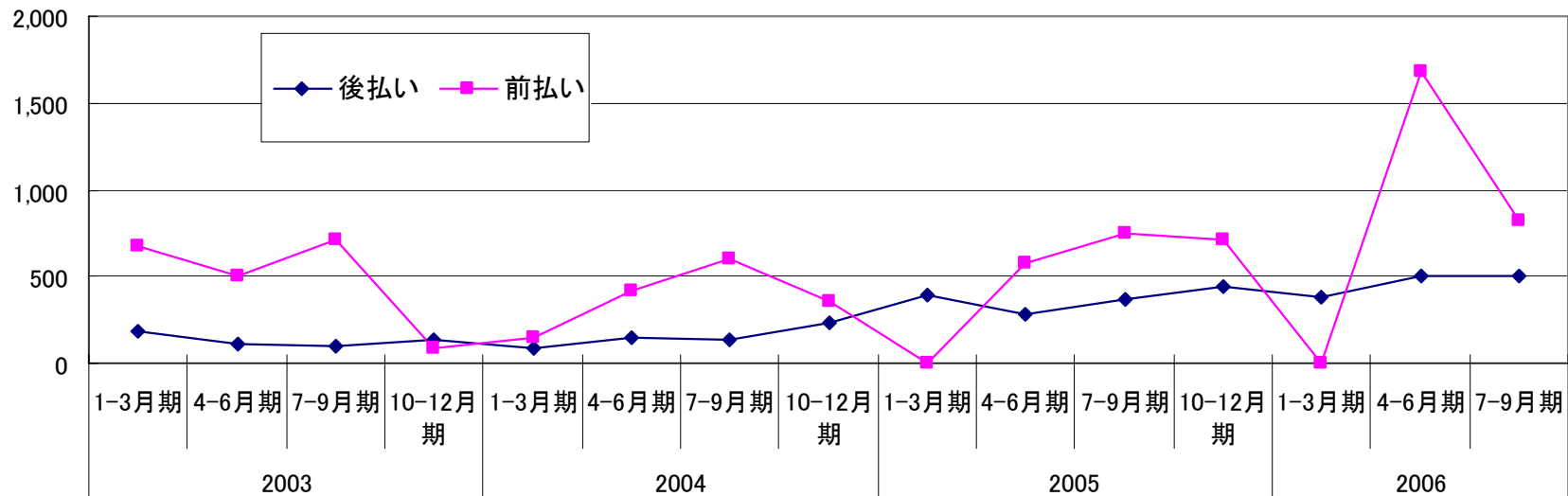
	2005年 1-3月期		2005年 4-6月期		2005年 7-9月期		2005年 10-12月期		2006年 1-3月期		2006年 4-6月期		2006年 7-9月期	
	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率
携帯電話関連	555	95.0%	1,210	97.2%	1,351	96.6%	1,735	96.3%	993	97.5%	2,409	99.0%	1,593	98.5%
うち製品売上	414	71.0%	886	71.2%	1,109	79.3%	1,258	69.8%	389	38.2%	2,206	90.6%	1,341	82.9%
うち技術支援	140	24.0%	324	26.0%	242	17.3%	477	26.5%	590	57.9%	188	7.7%	241	14.9%
うちその他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	1.3%	27	1.1%	0	0.0%
携帯電話以外	29	5.0%	34	2.8%	48	3.4%	67	3.7%	24	2.4%	26	1.1%	24	1.5%
うち製品売上	18	3.0%	22	1.7%	35	2.5%	53	2.9%	23	2.3%	19	0.8%	19	1.2%
うち技術支援	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.3%	5	0.3%
うちその他	10	1.7%	13	1.0%	13	0.9%	14	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	584	100.0%	1,244	100.0%	1,399	100.0%	1,801	100.0%	1,018	100.0%	2,434	100.0%	1,618	100.0%
ライセンス/ロイヤリティ		74.0%		73.0%		81.8%		72.7%		40.5%		91.4%		84.1%
サービス		24.3%		26.0%		17.3%		26.5%		57.9%		8.0%		15.2%

	2005年 1-3月期		2005年 4-6月期		2005年 7-9月期		2005年 10-12月期		2006年 1-3月期		2006年 4-6月期		2006年 7-9月期	
	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率
日本	274	46.9%	455	36.6%	925	66.1%	983	54.6%	889	87.3%	610	25.1%	656	40.6%
北米	138	23.6%	611	49.1%	308	22.0%	316	17.6%	8	0.8%	1,693	69.5%	828	51.2%
欧州	101	17.3%	95	7.6%	71	5.1%	71	3.9%	1	0.1%	4	0.2%	3	0.2%
アジア	69	11.8%	83	6.7%	95	6.8%	431	23.9%	120	11.8%	127	5.2%	131	8.1%
合計	584	100.0%	1,244	100.0%	1,399	100.0%	1,801	100.0%	1,018	100.0%	2,435	100.0%	1,617	100.0%

(単位: 百万円)

■ 前払いロイヤリティと後払いロイヤリティ

- 後払い: 安定的に増加
- 前払い: 高水準を維持



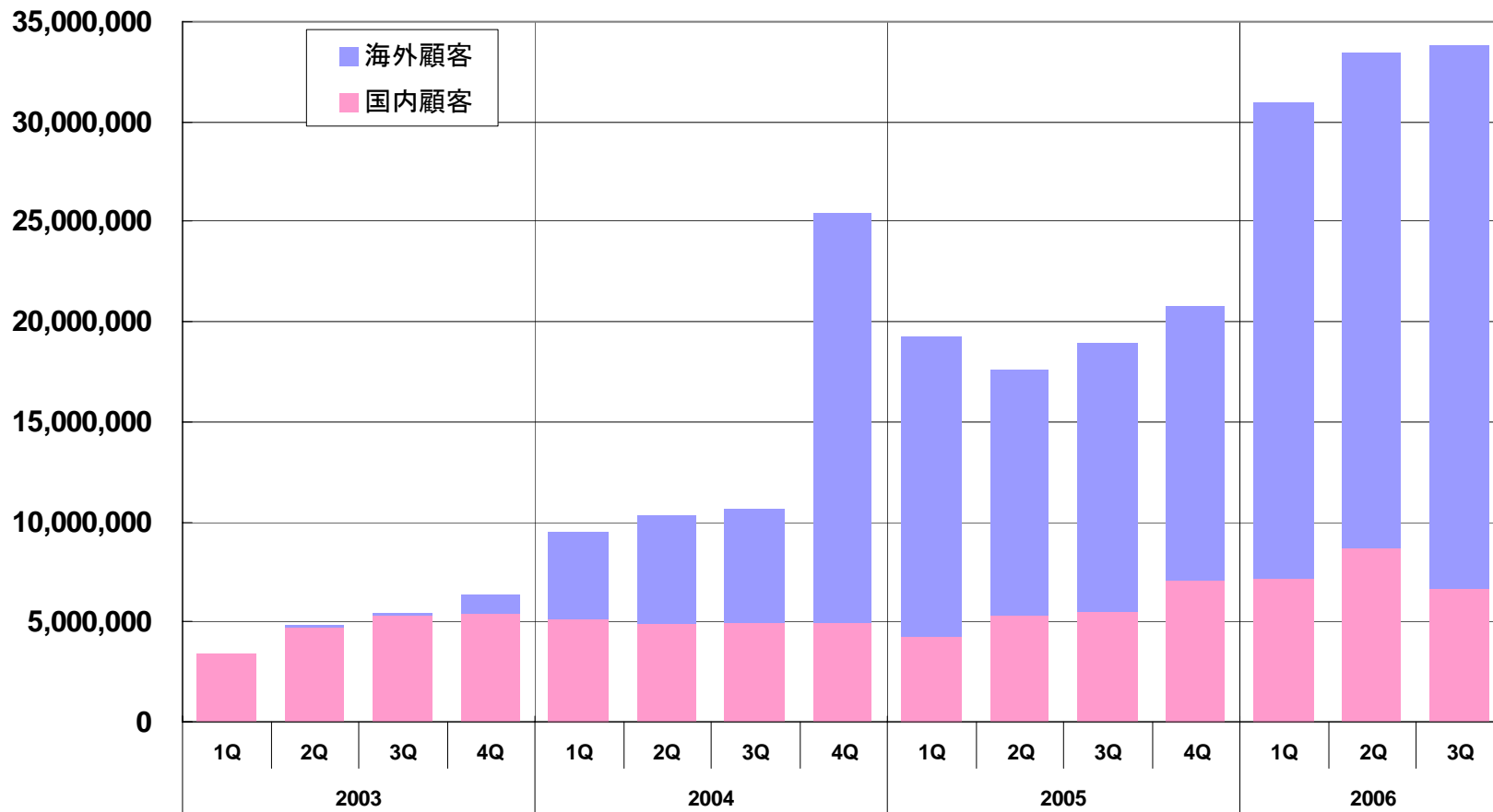
	2003				2004				2005				2006		
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期
後払いロイヤリティ	190	115	96	134	87	147	132	230	389	277	371	439	383	498	508
前払いロイヤリティ	676	506	708	91	153	419	607	361	0	571	744	715	0	1,684	821
ロイヤリティ合計	866	621	804	226	240	567	740	591	389	848	1,116	1,154	383	2,182	1,329

(単位: 百万円)

出荷台数の動向



■ JBlend出荷台数



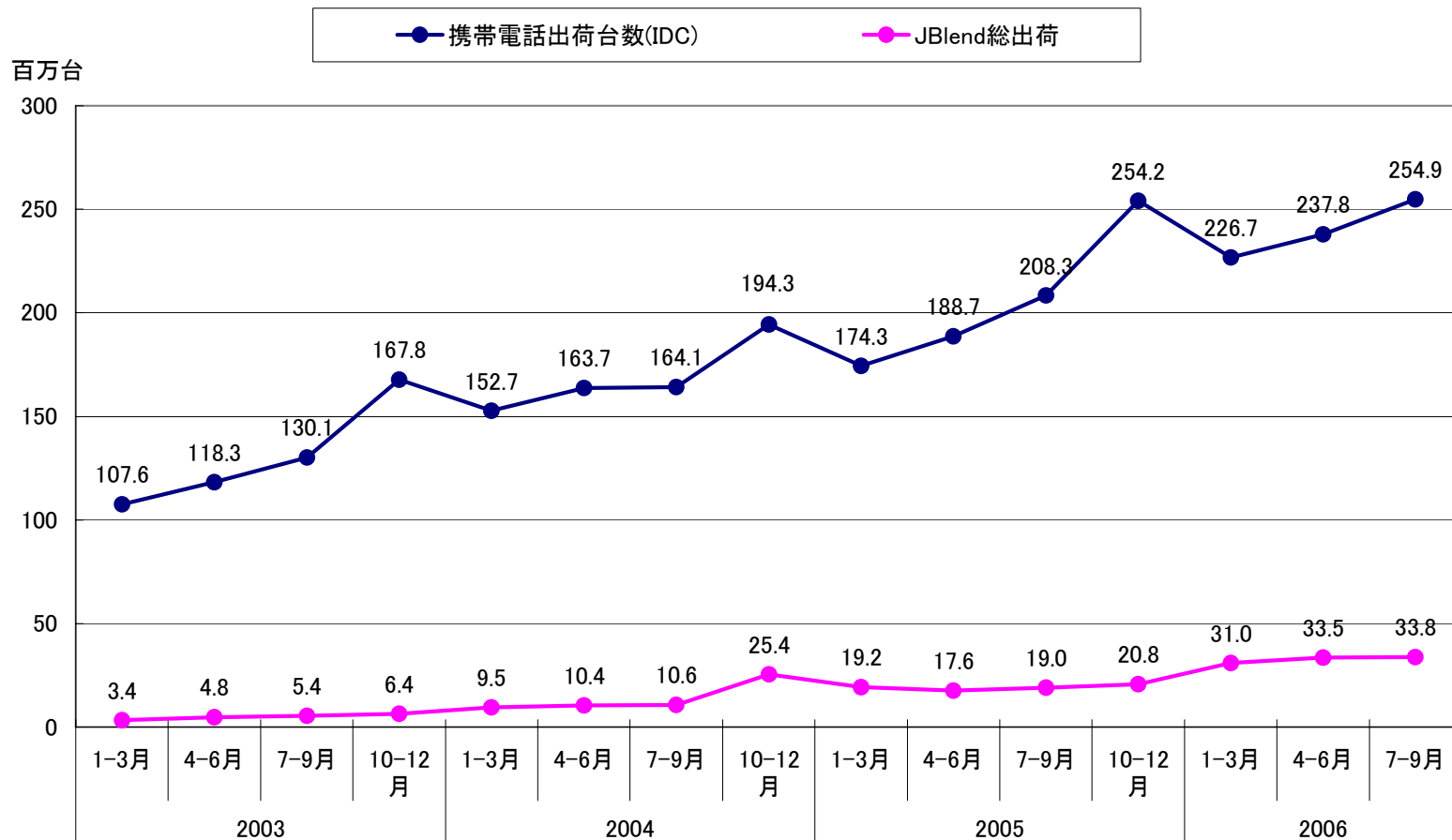
	2003年				2004年				2005年				2006年		
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
国内顧客向け	3.3	4.7	5.3	5.4	5.0	4.9	4.9	4.9	4.2	5.3	5.4	7.0	7.1	8.6	6.6
海外顧客向け	0.0	0.0	0.0	0.9	4.4	5.4	5.6	20.4	14.9	12.2	13.4	13.7	23.8	24.8	27.1
合計	3.3	4.8	5.3	6.3	9.5	10.3	10.6	25.4	19.2	17.5	18.9	20.7	30.9	33.4	33.8
累計	20.3	25.2	30.5	36.9	46.5	56.8	67.5	92.9	112.1	129.6	148.6	169.4	200.4	233.8	267.7

出荷台数の動向



■ グローバル市場

- Java搭載比率は50%超
- Java搭載端末におけるシェアは20%超
- 引き続きメーカーの内製ならびに開発委託が大半を占める



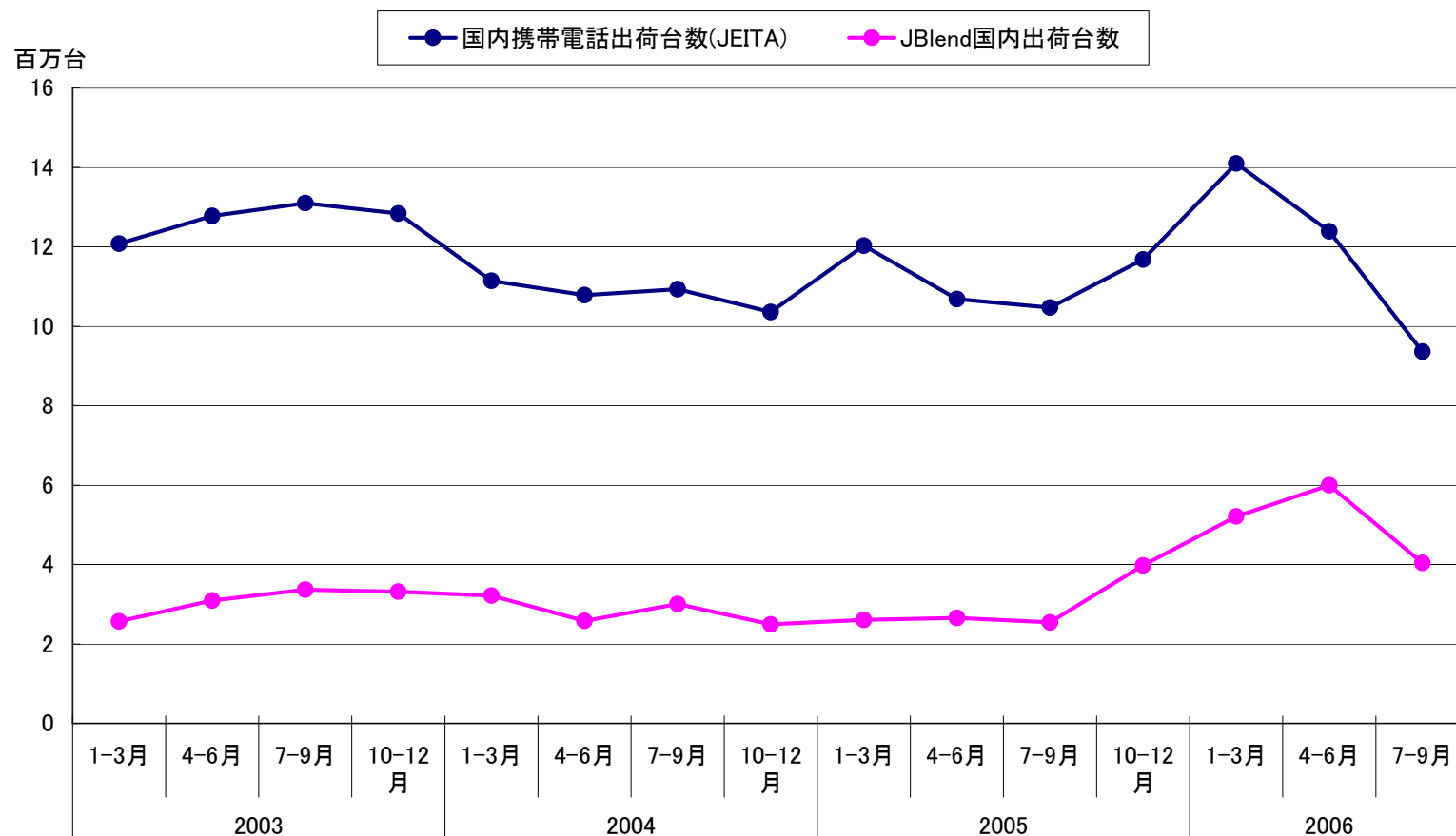
注) 携帯電話出荷台数にはJavaを搭載していない端末も含まれます

出荷台数の動向



■ 日本市場

- Java搭載比率は60%超 — 四半期で約800万台
- 第3四半期はMNP前の買い控えにより市場ならびに当社の出荷は低調



注) 国内携帯電話出荷台数にはJavaを搭載していない端末も含まれます

出荷台数の動向

- アジア市場
 - Samsung Electronics向けが引き続き好調

上映のみ

■ 第3四半期

■ フレームワーク事業の開発本格化

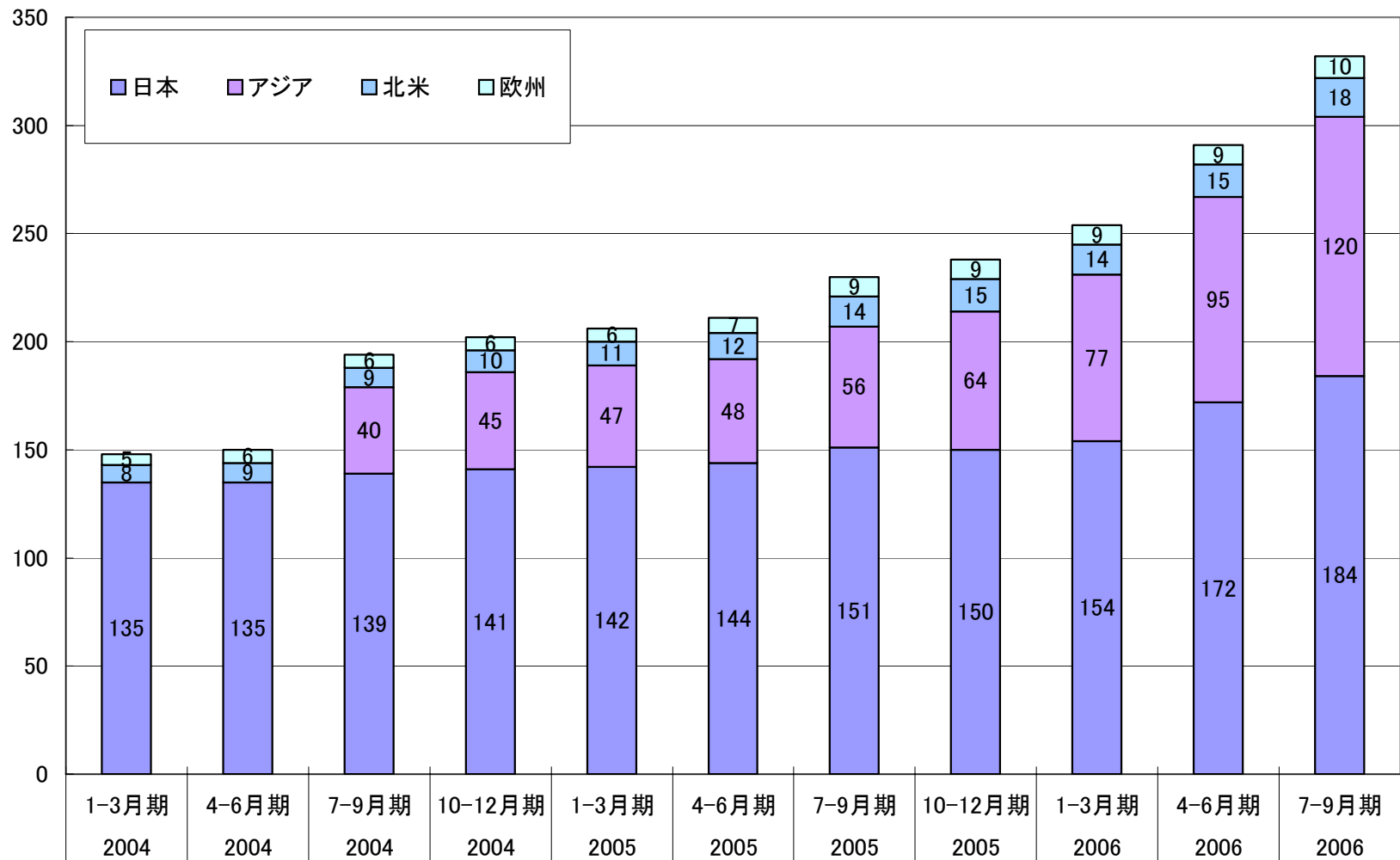
- 外注費増加
- 資産計上の増加

	2005年 1-3月期	2005年 4-6月期	2005年 7-9月期	2005年 10-12月期	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期	2006年 7-9月期
売上原価	416	522	698	660	1,035	817	777
人件費	226	245	235	253	254	286	348
外注費	172	214	306	664	1,203	800	1,373
ロイヤリティ	106	125	334	144	130	175	139
減価償却費	113	122	137	156	147	267	170
その他	85	111	111	115	155	155	177
(製造費用計)	704	818	1,123	1,332	1,889	1,683	2,207
仕掛増減	(10)	(6)	(74)	(121)	96	49	59
他勘定振替	(276)	(291)	(351)	(552)	(950)	(916)	(1,489)
販売管理費(連結調整勘定償却を除く)	374	439	491	737	832	568	500
人件費	168	167	187	193	226	251	229
研究開発費	40	66	97	219	350	66	73
減価償却費	5	6	6	6	7	7	7
その他	161	200	202	318	249	244	192
合計(連結調整勘定償却を除く)	790	961	1,190	1,397	1,867	1,384	1,277
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923	0

(単位:百万円)

■ 従業員数の推移

- 第2四半期末で332名
- 引き続きアジア地域での増員



■ 第3四半期の主なポイント

■ AMF開発本格化に伴うソフトウェア関連資産の増加

	2005年12月期 期末	2006年12月期 中間期末	2006年12月期 第3四半期期末
流動資産	19,968	13,397	12,104
現預金	17,284	9,312	9,088
有価証券	-	1,400	1,301
売掛金	2,115	2,042	1,145
棚卸資産	211	68	9
繰延税金資産	71	92	56
その他	309	515	534
貸倒引当金	(22)	(32)	(29)
固定資産	3,892	8,225	10,275
有形固定資産	140	165	164
無形固定資産	3,306	2,629	3,845
ソフトウェア	1,023	913	786
ソフトウェア仮勘定	417	1,698	3,042
連結調整勘定	1,846	0	0
その他	20	18	17
投資その他の資産	446	5,431	6,266
投資有価証券	277	5,095	6,030
その他	169	336	236
資産合計	23,859	22,511	22,378

	2005年12月期 期末	2006年12月期 中間期末	2006年12月期 第3四半期期末
流動負債	1,749	1,333	1,798
買掛金	483	582	1,016
短期借入金	340	0	0
1年以内返済予定長期借入金	31	15	8
未払金	340	285	317
未払法人税等	381	248	185
その他	174	202	273
固定負債	3	0	0
少数株主持分	0	0	0
純資産合計(資本合計)	22,108	20,289	20,455
資本金	13,232	13,236	13,241
資本剰余金	14,148	14,152	14,156
利益剰余金・その他	(5,272)	(7,099)	(6,942)
負債・少数株主持分・資本合計	23,859	22,511	22,378

(単位: 百万円)

- 第3四半期の主なポイント
 - 入金による売掛金の減少
 - ソフトウェア資産への計上が増加

	2005年 1-3月期	2005年 4-6月期	2005年 7-9月期	2005年 10-12月期	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期	2006年 7-9月期
営業活動によるキャッシュフロー	621	131	291	(41)	467	536	1,018
税前損益	(1,116)	(617)	(692)	(536)	(1,772)	75	421
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923	0
減価償却費	119	127	143	162	154	275	177
法人税等支払額	(4)	(8)	(2)	(35)	(392)	70	(216)
その他	699	(294)	(81)	(555)	1,554	(807)	636
投資活動によるキャッシュフロー	(298)	(303)	(147)	(328)	(7,711)	(195)	(3,107)
投資有価証券の取得・売却	(96)	(75)	0	30	(7,303)	837	(1,714)
子会社株式の取得	0	0	0	0	0	0	0
その他	(202)	(228)	(147)	(358)	(408)	(1,031)	(1,392)
財務活動によるキャッシュフロー	(24)	30	(32)	12,829	(123)	(226)	17
株式発行による資金調達	17	15	3	12,918	4	3	25
有利子負債の増減	(36)	17	(35)	(95)	(127)	(228)	(8)
その他	(5)	(2)	0	6	0	(1)	(0)
為替調整	15	10	8	(82)	(8)	(30)	60
現金・現金同等物残高の増減	313	(131)	120	12,380	(7,376)	(709)	(1,216)
現金・現金同等物の期末残高	4,733	4,607	4,728	17,108	9,732	9,023	7,807

(単位:百万円)

通期の見通しについて



■ 売上高

- 海外の出荷が好調、アップサイドの可能性
- 国内はMNPなど市場要因の影響によりダウンサイド
- フレームワーク関連売上高は限定的

■ 営業費用

- 下期は第2四半期と同程度の水準が想定される
- 第1四半期の一時的費用を吸収するような費用削減は困難

■ 損益

- 売上高が期初計画並みに留まるのであれば、損益面では赤字となる可能性が高い
- 売上高のアップサイドがどの程度の水準になるかを精査中

各事業の進捗について



各事業の進捗状況について



■ Java

- 顧客層の拡大
- Javaのオープンソース化の影響: ポジティブな側面が強いと判断

■ ミドルウェア フレームワーク

■ Linux

- MOAP(L)のライセンスを取得、MOAP(L)を外販可能に
- ドコモ向けの開発

■ BREW

- 営業活動は順調
- 通信会社とメーカーから中上位機種の開発需要が増大

■ USVM

- ネイティブアプリケーション向け仮想化技術

■ JBlend採用メーカー



ODM メーカー



デザインハウス



■ 主要な通信事業者の独自仕様への対応



- ほぼ全てのVFX対応携帯電話がJBlendを採用
- J-phone仕様の主要プロバイダー



- FOMA端末向けのDoja/Javaプラットフォームを共同開発
- FOMA902iシリーズ全6機種がJBlendを採用
- 次世代携帯電話向けJavaプラットフォームの開発プロジェクト(Star project)に協力



- オープンアプリプレイヤーの提供で合意



- 2001年よりSprintのJavaプラットフォームのパートナー
- SprintのJava仕様v1.0/1.3からv2.xまで全てに対応したJavaプラットフォームを提供



- China MobileのJava仕様2.1.1と3.0の主要プロバイダー
- China MobileのJava仕様3.0の仕様策定に参画
- China Mobileのテストキット(CETK)のプロバイダー



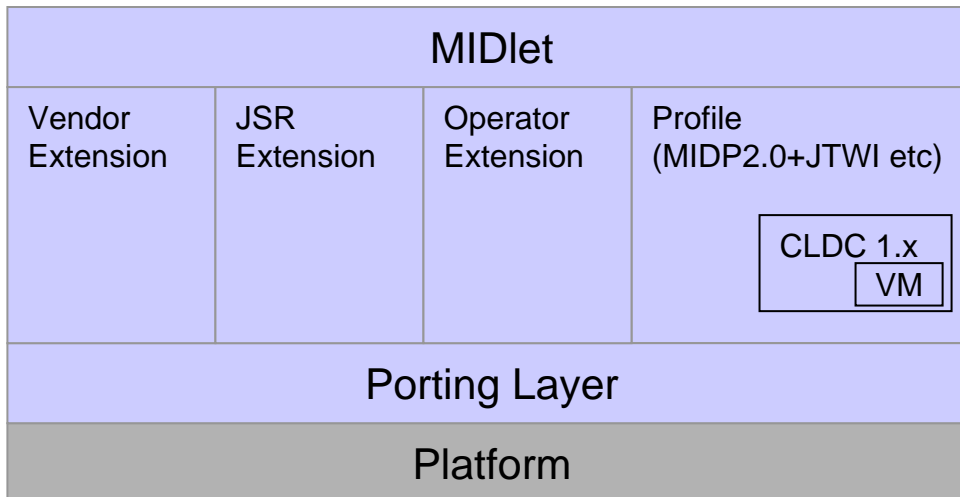
- China Telecomの3G向けJavaのドラフトを設計

通信事業者と緊密な協力体制を構築し、独自Java仕様の作成、ツール類の開発をサポート

■ オープンソース化

- Sun Microsystemsが11/13にJavaをGPLv2ベースでオープンソース化することを発表
- アプリックスにとってはポジティブ
 - エンドユーザ側でのコスト低減につながり、普及が加速される
 - アプリックスの収益はVMそのものよりも、メーカー、キャリア各社の需要に対応したプロファイルやエクステンション、ポーティング、他のサービスが大きい
 - 上記のプロファイルやエクステンションはサンが提供しているものではなく、したがってオープンソース化されるものではない
 - むしろ、サンへのロイヤリティを減らせる可能性がある

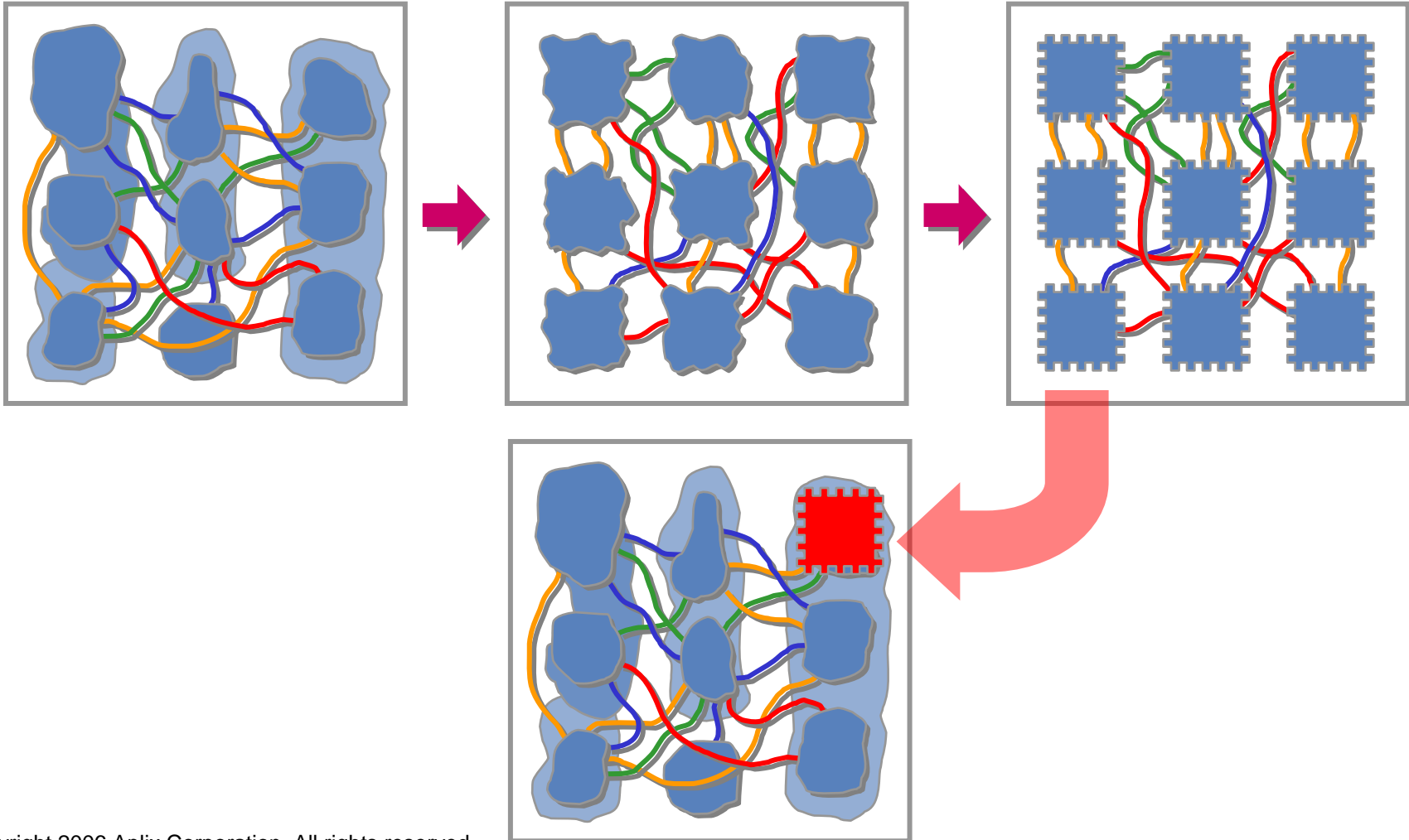
Java実行環境の基本的な構成



ミドルウェアフレームワーク - 開発コンセプト

■ フェーズ1 - モジュール化

- 既存コンポーネントのモジュール化と商用モデルへの適用

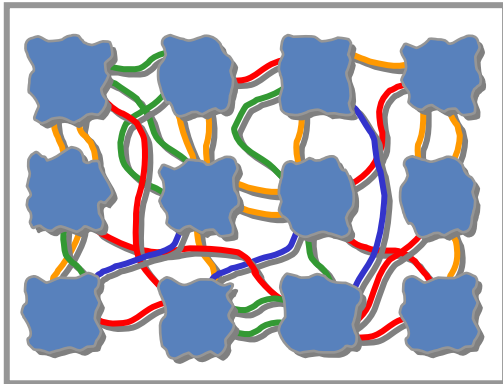


ミドルウェアフレームワーク - 開発コンセプト

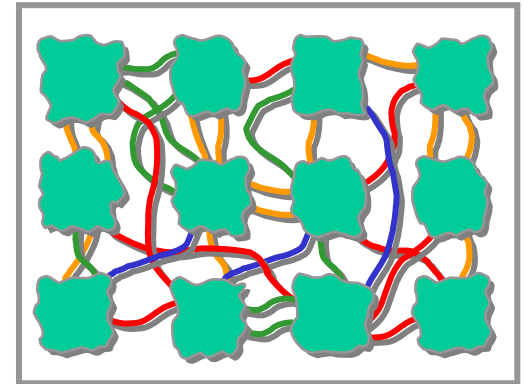


- フェーズ2 - フレームワーク化
 - フレームワークの提供と容易なモジュール交換

BREW携帯

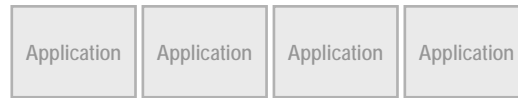


LINUX携帯

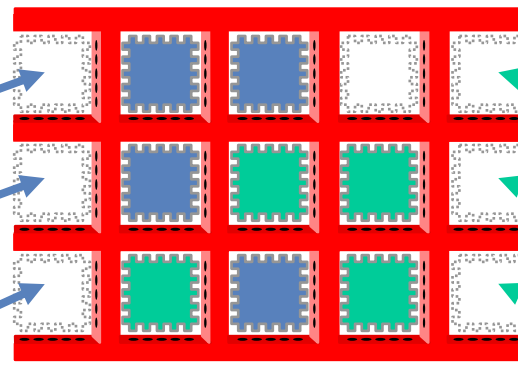


共通プラットフォーム

共通API化による既存技術の活用

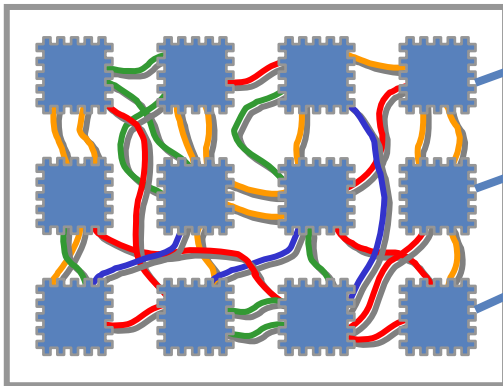


User Interface

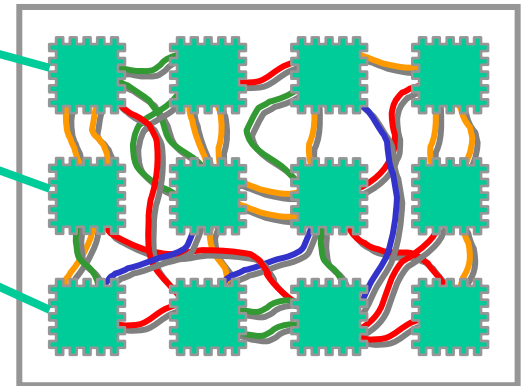


platform

モジュール化

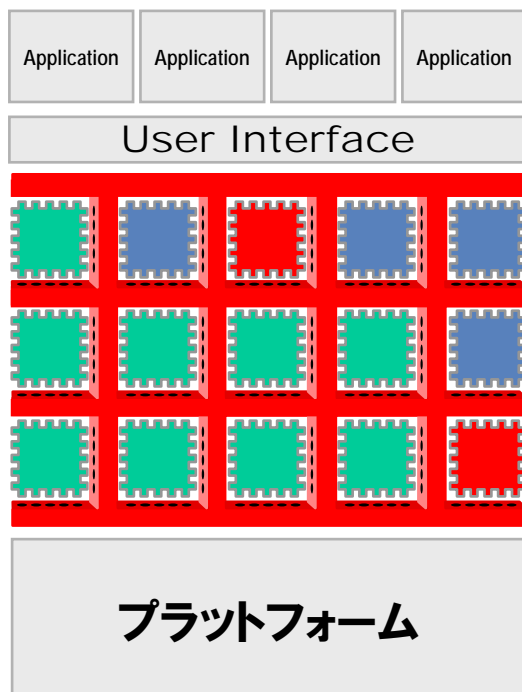


モジュール化



ミドルウェアフレームワーク – 開発コンセプト

- BTO(Built-to-order)携帯電話ソフトウェアソリューションの提供
 - 各キャリア向け標準モデル(Reference Implementation – RI)の提供
 - RIとともに様々な追加コンポーネントを提供
 - アプリックス1社でベンダーコンポーネント、サードパーティコンポーネント、自社コンポーネントを統合した顧客の要望に柔軟に対応するソリューションや端末設計を提供

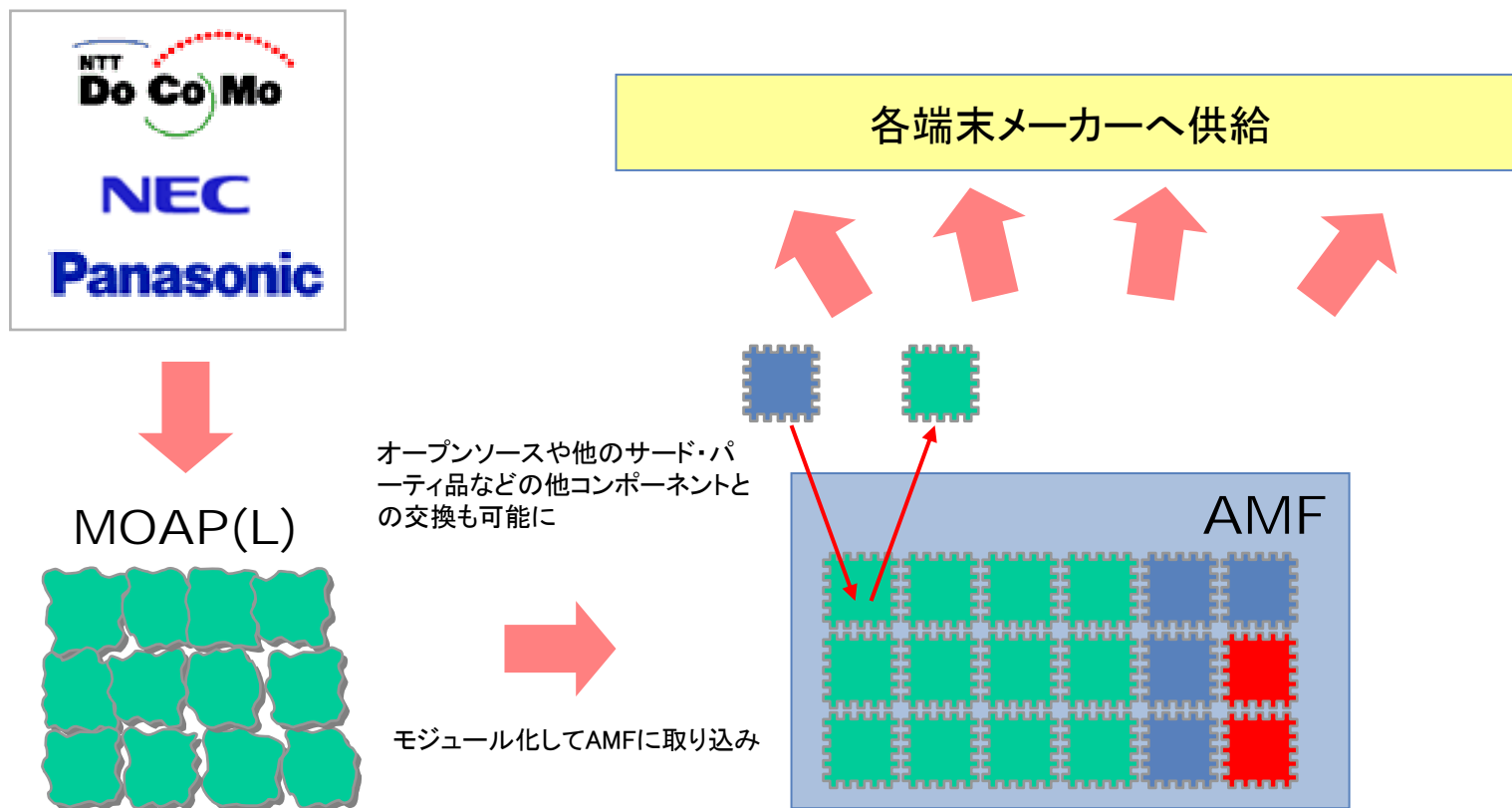


- サードパーティコンポーネント
- キャリア標準コンポーネント
- Aplix 自社コンポーネント

顧客の需要に応じて、
様々なコンポーネント
を組み合わせ、統合ソ
リューションの提供が
可能になる

■ MOAP(L)のライセンス取得とAMFの関係

- MOAP(L)は現在のLinuxベースの携帯電話向けソフトウェアでは最高水準
- AMFに取り込んで各メーカーへの販売を行っていく
- NEC、松下にとってはアプリックスは「再販業者」的位置付け




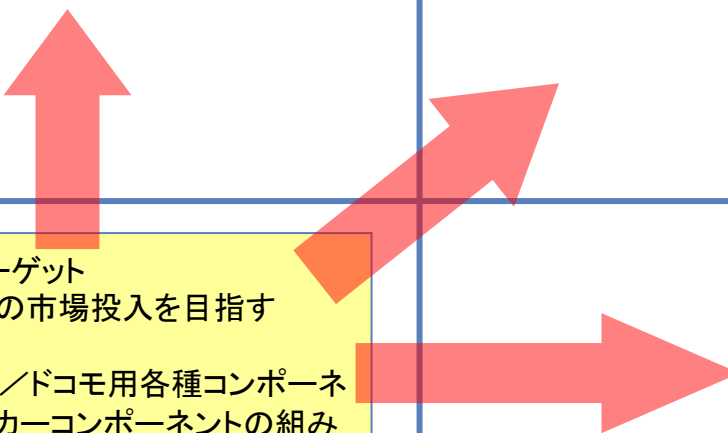
ミドルウェアフレームワーク - Linux



■ 販売ターゲット

- 当初はNEC・松下を除くNTTドコモ向けの端末を(2007年中頃を目処)
- 他キャリア向け改造によりさらなる拡販

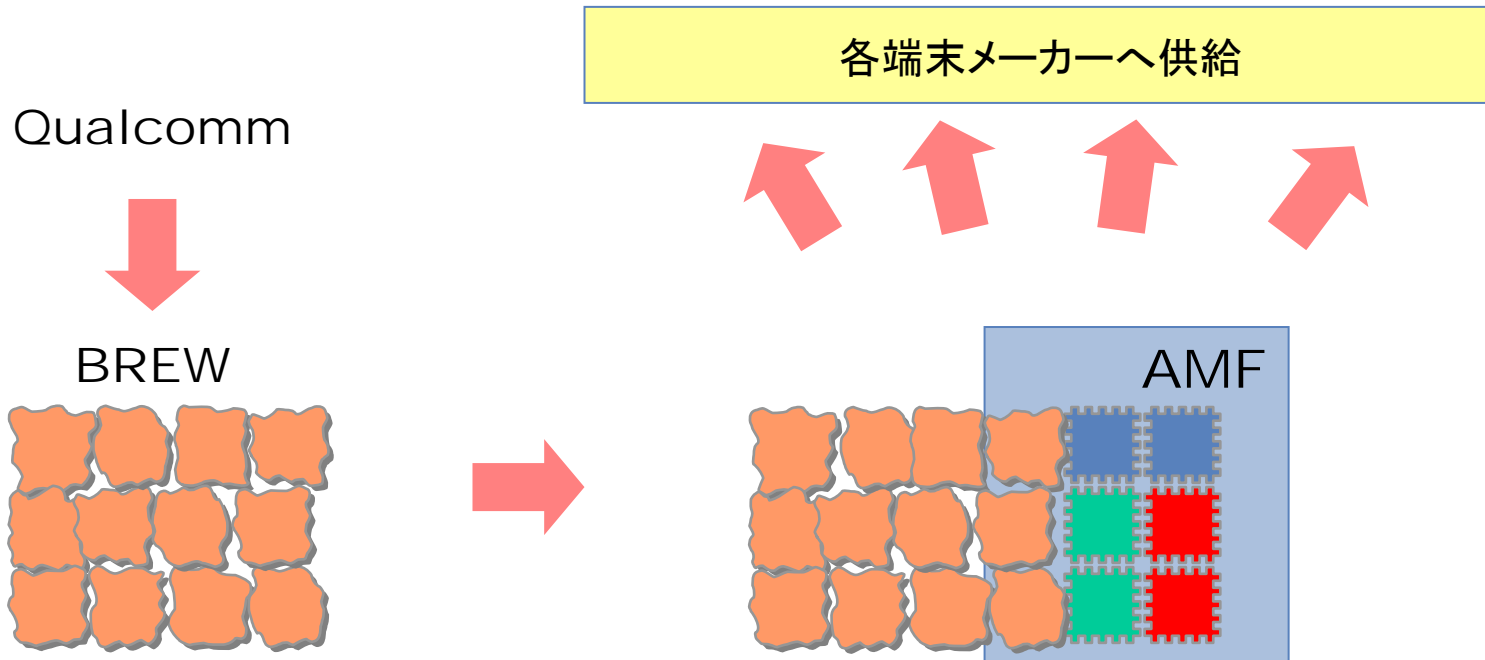
		ドコモ以外の 通信会社向け
NEC Panasonic		
NEC・松下 以外のメーカー	<p>最初のターゲット 2007年中の市場投入を目指す</p> <p>MOAP(L)/ドコモ用各種コンポーネント/メーカーコンポーネントの組み合わせ</p>	



ミドルウェアフレームワーク - BREW



- BREWとフレームワークの関係
 - BREW部分はQualcommから供給
 - 機能の追加を容易にするためにフレームワークを用いる



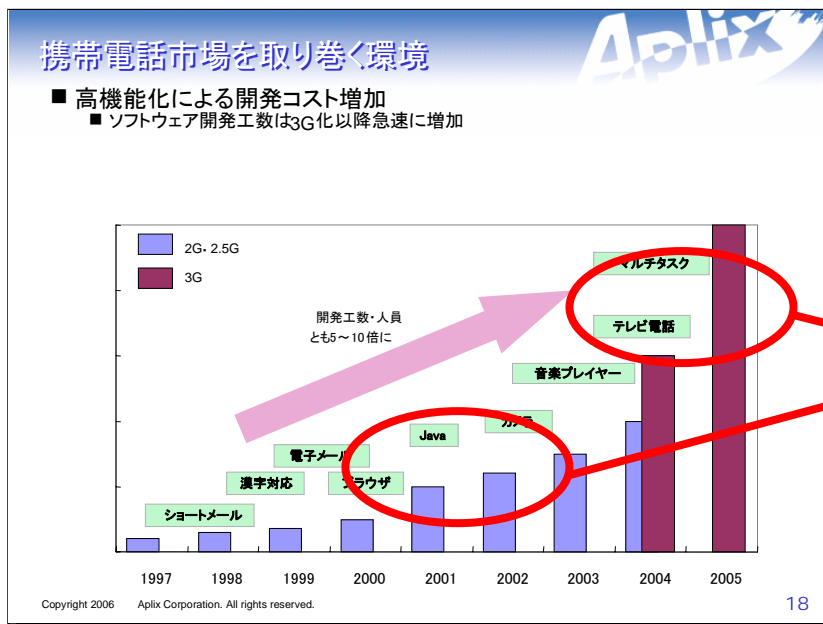
■ 計画

■ 従来の想定

- 開発の性格や顧客層からいわゆる企画モデルからの投入を想定していた
- 中長期的にLinuxとのコンポーネントの互換性を考えつつ中上位機種へ展開

■ 開発費積み増しの検討

- 各キャリア・各メーカーの中上位機種への投入意欲
- 両方を満たすためには開発費に大幅な増額が必要・・・社内で収益構造など含め是非を検討中

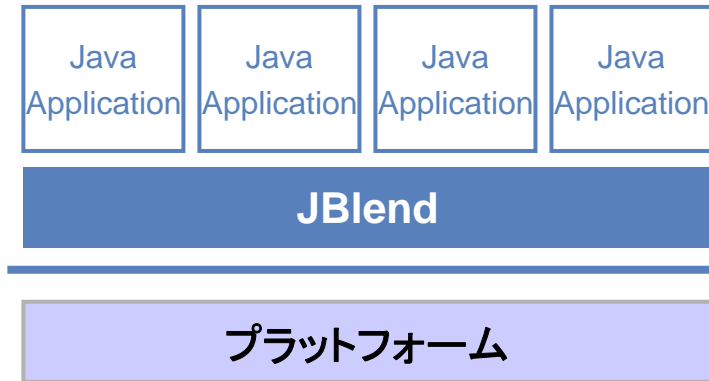


従来のターゲット: 企画端末
需要の強さ: ミッドレンジ~ハイエンド機
→ 機能の差から工数では4~5倍の規模になる

■ User Space Virtual Machine

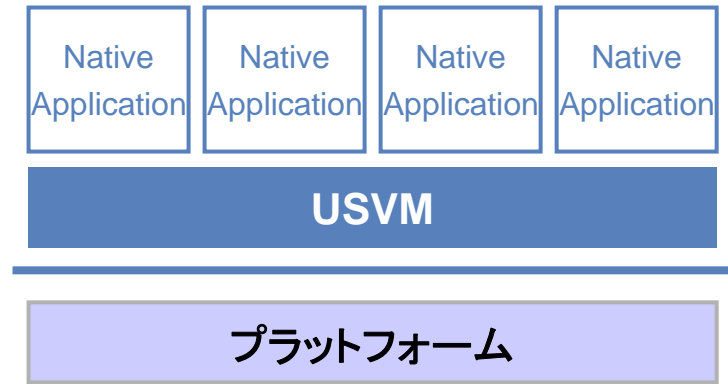
- Javaと似たような仮想化技術をネイティブアプリケーション向けに応用
- ネイティブアプリケーションにJavaと同水準のセキュリティを確保
- フレームワークと連動した販売が効果的だが単体でも販売可能
- 2007年前半からの提供を目標

Javaの特徴

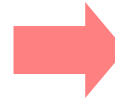


JBlendを搭載することにより、Javaによるアプリケーションを、OSやミドルウェア、デバイスドライバと完全に分離して開発できるため、**様々なアプリケーションを簡単に安全に作れる**ようになった。

USVMの特徴



高いセキュリティ性など、Javaの特徴としても認識されている**仮想化による機能をネイティブアプリケーションにも活用する**





株式会社 アプリックス